

岡山県立美術館開館30周年記念展

県美コネクション つながる「ひと」・「もの」・「こと」

2期 出品リスト

2018年4月20日（金）～7月1日（日）

1期：2018年4月20日（金）～5月27日（日）

2期：2018年5月30日（水）～7月1日（日）

雪舟がつないだ時代

備中赤浜（岡山県総社市）生まれの雪舟等楊（1420-1506?）は、時代を越えて人々を惹きつけた画家でした。彼自身、明における同時代の画風を摂取しながら、2世紀ほど遡った南宋時代の中国人画家たちの作品に倣っています。

雪舟は山口に画房・雲谷庵をつくり、そこで制作に打ち込みました。その名声は各地に聞こえ、多くの画家がこぞって雪舟に弟子入りしました。彼らは、雪舟没後もその画風を慕って描き継いでいきます。長谷川等伯（1539-1610）は桃山時代の画家ですが、「雪舟五代」と名乗って自らを雪舟の系譜上に位置づけました。

その後、毛利輝元から雲谷庵を拝領して雪舟の画系を正式に受け継ぐ者であると唱えた雲谷派が、江戸時代に雪舟流を形成し、幕末まで続く画派となったのです。ここでは、500年にわたる歴代雪舟ファンたちの作品をご覧ください。

作者	作品名	制作年	材質・技法	所蔵
おうがく 王謬	しゅんけいさんすいず 春景山水図	明時代（16世紀）	絹本墨画淡彩	林原美術館蔵
不詳	ぎちようほうしのず 魏徴奉使之図（6/11-7/1）	明時代（15世紀）	絹本墨画淡彩	本館蔵
もっけい 牧谿	ろうしず 老子図（重要文化財・5/30-6/7）	南宋時代末-元時代初（13世紀）	紙本墨画	本館蔵
ぎよくかん 玉潤	ろざんず 廬山図（重要文化財・5/30-6/10）	南宋時代末-元時代初（13世紀）	絹本墨画	本館蔵
せっしゅうとうよう 雪舟 等楊	さんすいず ほうぎよくかん 山水図（倣玉潤）（重要文化財・6/8-7/1）	室町時代（15世紀）	紙本墨画	本館蔵
せっしゅうとうよう 雪舟 等楊	さんすいず 山水図	室町時代（15-16世紀）	絹本墨画	本館蔵
しゅうげつとうかん 秋月 等観	さんすいず 山水図	室町時代（15-16世紀）	紙本墨画	本館蔵
ようふ 楊富	さんすいず 山水図	室町時代（16世紀）	紙本墨画	本館蔵
しょうこ 承虎	さんすいず 山水図	室町時代（15-16世紀）	紙本墨画淡彩	本館蔵
じょすい そうえん 如水 宗淵	さんすいず 山水図	室町時代（15-16世紀）	紙本墨画	本館蔵
うんこく とうえき 雲谷 等益	さんすいずびょうぶ 山水図屏風	江戸時代（17世紀）	紙本墨画淡彩	本館蔵
うんこく とうはん 雲谷 等璠	さんすいずかん 山水図巻	江戸時代（17-18世紀）	絹本墨画淡彩	本館蔵
とうしゅん 等春	しゃかざせんず 釈迦坐禅図	室町時代後期（16世紀）	紙本墨画淡彩	個人蔵
はせがわ とうはく 長谷川 等伯	ろようだるます 芦葉達磨図	桃山時代（16世紀）	紙本墨画淡彩	本館蔵
でん せっしゅう 伝 雪舟	きんきしよがず 琴棋書画図	室町時代（16世紀）	紙本墨画淡彩	本館蔵
かのう たんゆう 狩野 探幽	でんせっしゅう きんきしよがず しゅくず 伝雪舟琴棋書画図縮図	江戸時代（17世紀）	紙本墨画	本館蔵
とみおか てっさい 富岡 鉄斎	せっしゅういつじかん じょうかん 雪舟逸事巻（上巻）	明治23（1890）年	紙本着色	本館蔵
とみおか てっさい 富岡 鉄斎	せっしゅうがぞう ふんほん 雪舟画像（粉本）	明治時代（19世紀）	紙本淡彩	本館蔵

岡山・四条派の系譜と文人たちのネットワーク

四条派の祖である呉春（1752-1811）は、はじめ与謝蕪村のちに円山応挙にも学び、文人画と写生派を融合させ、軽妙で洒脱な画風を編み出しました。呉春門下の画人たちは京都の四条界隈に住んだので、彼らは「四条派」と呼ばれます。現倉敷市出身の岡本豊彦（1773-1845）は山水画を得意とし、現瀬戸内市出身の柴田義董（1780-1819）は人物画で高い評価を得ました。

同じ頃、中国に対する憧憬から、文人画は人々の高い関心を集め、鑑賞したり自ら筆をとったりすることが盛んに行われました。また、文人たちにとって親しい人々との交流は何よりも楽しく、各地を旅すればそれを迎え入れるネットワークがありました。岡山ゆかりの文人画家には浦上玉堂（1745-1820）をはじめ鉤雲泉（1745-1820）や、広瀬臺山（1751-1813）、藤本鉄石（1816-1863）がいます。

ここでは、このような近世における画派のつながりや、人と人との親しい交わりをご紹介します。

作者	作品名	制作年	材質・技法	所蔵
まるやま おうきよ 円山 応挙	ふうせつさんこず 風雪三顧図	寛政元（1789）年	絹本着色	個人蔵
まつむら けいぶん、おかもと とよひこ 松村 景文、岡本 豊彦	りゅうこ 龍虎図	天保7（1836）年	紙本墨画	野崎家塩業 歴史館蔵
おかもと とよひこ 岡本 豊彦	りゅうず りくによさん 龍図（六如賛）	江戸時代（19世紀）	絹本墨画	本館蔵
おかもと とよひこ 岡本 豊彦	ばいけいしゆんう・ちくばせきようず 梅溪春雨・竹坡夕陽図	江戸時代（19世紀）	絹本淡彩	本館蔵
おかもと とよひこ 岡本 豊彦	ふじざんずびようぶ 富士山図屏風	文政7（1824）年	紙本墨画淡彩	本館蔵
しばた ぎとう 柴田 義董	ぐんせんずかん 群仙図巻	文化8（1811）年	紙本淡彩	個人蔵
しばた ぎとう 柴田 義董	せいえんがしゅうず 西園雅集図	文化8（1811）年頃	紙本淡彩	本館蔵
くしろ うんせん 鉤 雲泉	さんすいず 山水図	寛政3（1791）年	絹本墨画淡彩	個人蔵
くしろ うんせん 鉤 雲泉	らんていきよくすいず 蘭亭曲水図	江戸時代（18-19世紀）	絹本墨画淡彩	個人蔵
ひろせ たいざん 広瀬 臺山	らんていきよくすいず 蘭亭曲水図	江戸時代（19世紀）	紙本淡彩	個人蔵
ふじもと てっせき 藤本 鉄石	らんていきよくすいず 蘭亭曲水図	安政5（1858）年	紙本墨画淡彩	個人蔵
ふじもと てっせき 藤本 鉄石	せいえんがしゅうず 西園雅集図	文久2（1862）年	絹本淡彩	本館蔵
ひろせ たいざん 広瀬 臺山	ようめいどうず 陽明洞図	江戸時代（19世紀）	紙本墨画淡彩	個人蔵
いづか ちくさい 飯塚 竹斎	うめ きどりず 梅に黄鳥図	江戸時代（19世紀）	絹本着色	本館蔵
くろだ りょうざん 黒田 綾山	せきへきず 赤壁図	享和元（1801）年	絹本墨画	個人蔵
しらが こうこう 白神 皞々	かきずかん 花卉図巻	天保13（1842）年	絹本淡彩	個人蔵
しらが こうこう 白神 皞々	さんすいず 山水図	弘化元（1844）年	絹本墨画	個人蔵
せりざわ けいすけ 芹沢 銈介	ようこそ文のれん ようこそ文のれん	昭和50（1975）年	綿	個人蔵
たかき せいかく 高木 聖鶴	まんよう かしょびようぶ 萬葉歌書屏風「あらたまの」	平成9（1997）年	紙本墨書	本館蔵
なんば じんさい 難波 仁斎	じく あさがお つるべ 軸「朝顔に釣瓶」	昭和時代（20世紀）	紙本墨画淡彩	個人蔵
おかもと えいざん 岡本 英山	むしあけすいちゅう・せきへきしが 虫明水注（赤壁詩画）	大正・昭和時代（20世紀）	陶土	個人蔵
おかもと えいざん 岡本 英山	むしあげせんちやくき むしあげはっけい 虫明煎茶器（虫明八景）	大正・昭和時代（20世紀）	陶土	個人蔵
やまぐち まつた 山口 松太	うるしえさかづき きく 漆絵酒杯（菊）	昭和・平成時代（20-21世紀）	漆	本館蔵
やまぐち まつた 山口 松太	うるしえ のみ 漆絵ぐい呑（デイジー）	昭和・平成時代（20-21世紀）	漆	本館蔵
やまぐち まつた 山口 松太	はい 杯（つゆくさ）	昭和・平成時代（20-21世紀）	漆	本館蔵

やまぐち まつた 山口 松太	たかつき (いっつい) 高杯 (一对)	昭和-平成時代 (20-21世紀)	漆	本館蔵
やまぐち まつた 山口 松太	らく じ 楽の字	昭和-平成時代 (20-21世紀)	木	本館蔵

小野竹喬と池田遙邨

小野竹喬 (1889-1979) と池田遙邨 (1895-1988) はともに竹内栖鳳に学びました。栖鳳は、渡欧経験を生かし洋風表現を巧みに取り入れ、幅広い画題を多彩な表現で描き、京都画壇の巨匠となった人物です。栖鳳の師である幸野媒嶺は塩川文麟に学び、文麟の師は現倉敷市出身で四条派の画家・岡本豊彦であり、「岡山ゆかり」に連なります。2人はともに独自の画風を確立し、日展を主たる舞台として作品を発表し、文化勲章受章者となりました。

竹喬作品では、栖鳳の影響が強く表れた《洛外の山家》に始まり、茜色の空と緑の樹々の色彩の対比が鮮やかな《樹幹の茜》など、竹喬ならではの詩情あふれる美しい自然描写の作品をご紹介します。一方遙邨は、関東大震災をテーマに描いた《災禍の跡》や、波打ち際を歩く4羽のシギたちを描いたユーモラスな《なぎさ》など、多彩な表現世界をご覧ください。

作者	作品名	制作年	材質・技法	所蔵
おの ちつきょう 小野 竹喬	らくがい さんか 洛外の山家	明治39 (1906) 年	絹本墨画淡彩	笠岡市立 竹喬美術館蔵
おの ちつきょう 小野 竹喬	さんそんしゅんじつ 山邨春日	大正3 (1914) 年	絹本着色	個人蔵
おの ちつきょう 小野 竹喬	ももさ ころ 桃咲く頃	大正4 (1915) 年頃	絹本着色	笠岡市立 竹喬美術館蔵
おの ちつきょう 小野 竹喬	やま 山	昭和4 (1929) 年	紙本着色	笠岡市立 竹喬美術館蔵
たけうちせいほう 竹内 栖鳳	りゅうろず 柳鷺図	昭和2 (1927) 年	紙本着色	個人蔵
いけだ ようそん 池田 遙邨	さんそんげ 山村図	制作年不詳	絹本着色	野崎家塩業 歴史館蔵
いけだ ようそん 池田 遙邨	ふゆ いりうみ 冬の入海	大正11 (1922) 年	絹本着色	本館蔵
いけだ ようそん 池田 遙邨	さいか あと 災禍の跡	大正13 (1924) 年	絹本着色	倉敷市立美術館蔵
いけだ ようそん 池田 遙邨	しょうわろくじゅうよしゅうめいしよ 昭和六十余州名所	昭和9 (1934) 年	絹本着色	倉敷市立美術館蔵
いけだ ようそん 池田 遙邨	にしきこうじ よる 錦小路の夜	昭和4 (1929) 年	絹本着色	倉敷市立美術館蔵
いけだ ようそん 池田 遙邨	あかつきふ じ みほ まつばらせつげい あき さつたみね 暁の富士・三保の松原雪景・秋の薩埵峰	昭和8 (1933) 年	絹本着色	個人蔵
おの ちつきょう 小野 竹喬	ヨウシュヤマゴボウ	昭和37 (1962) 年	紙本着色	本館蔵
おの ちつきょう 小野 竹喬	ゆうあかね 夕茜	昭和43 (1968) 年	紙本着色	本館蔵
おの ちつきょう 小野 竹喬	じゅかん あかね 樹間の茜	昭和49 (1974) 年	紙本着色	笠岡市立 竹喬美術館蔵
おの ちつきょう 小野 竹喬	にほん しき はる こめん 日本の四季 春の湖面	昭和49 (1974) 年	紙本着色	株式会社天満屋蔵
おの ちつきょう 小野 竹喬	にほん しき きょう ともしび 日本の四季 京の灯	昭和49 (1974) 年	紙本着色	株式会社天満屋蔵
おの ちつきょう 小野 竹喬	にほん しき あさつゆ 日本の四季 朝露	昭和49 (1974) 年	紙本着色	株式会社天満屋蔵
おの ちつきょう 小野 竹喬	にほん しき かわ あた 日本の四季 川の辺り	昭和49 (1974) 年	紙本着色	株式会社天満屋蔵
いけだ ようそん 池田 遙邨	いけ 池	昭和27 (1952) 年	絹本着色	倉敷市立美術館蔵
いけだ ようそん 池田 遙邨	うじょう 烏城	昭和41 (1966) 年	紙本着色	株式会社天満屋蔵
いけだ ようそん 池田 遙邨	なぎさ	昭和52 (1977) 年	紙本着色	倉敷市立美術館蔵
いけだ ようそん 池田 遙邨	しおさい 潮騒	昭和58 (1983) 年	紙本着色	倉敷市立美術館蔵
いけだ ようそん 池田 遙邨	はとう 波濤	昭和61 (1986) 年	紙本着色	倉敷市立美術館蔵

海外での学び — 師や仲間との交友

明治以降、洋画習得を目指した画家たちは、本場である西洋に渡って現地の美術学校や画塾に学ぶようになります。岡山ゆかりの洋画家たちも海外に留学し、現地の優れた画家に師事しつつ、学友と刺激し合いながら研鑽しました。

ミュンヘンに留学した原田直次郎は、美術アカデミーで本格的な美術教育を受けながら、ガブリエル・フォン・マックスにも私的に学びました。生涯で三度渡仏した鹿子木孟郎は、アカデミー・ジュリアンで歴史画家ジャン＝ポール・ローランスにつき、アカデミズム絵画を獲得しました。1920年代にパリで留學生活を送った中山巍は、モーリス・ド・ヴラマンクに師事し、マルク・シャガールなどエコール・ド・パリの画家たちとも交友しています。

ここでは、海外に学んだ岡山ゆかりの洋画家たちによる留學時代の作品を、彼らの師や仲間たちとの交友を踏まえながらご紹介します。

作者	作品名	制作年	材質・技法	所蔵
まつおか ひさし 松岡 寿	ローマの郊外 <small>こうがい</small> オレーヴァノ風景 <small>ふうけい</small>	イタリア滞在期 (1880-87) 年	水彩・紙	本館蔵
まつおか ひさし 松岡 寿	石造りの家 <small>いしづく いえ</small> オレーヴァノ風景 <small>ふうけい</small>	イタリア滞在期 (1880-87)年	水彩・紙	本館蔵
まつおか ひさし 松岡 寿	木を削る男の裸体 <small>き けず おとこ らたい</small>	明治14-20 (1881-87) 年	木炭・紙	本館蔵
まつおか ひさし 松岡 寿	後ろ向きの裸婦 <small>うし む らふ</small>	明治14-20 (1880-88) 年	木炭・紙	本館蔵
まつおか ひさし 松岡 寿	ピエトロ・ミカの服装の男 <small>ふくそう おとこ</small>	明治14 (1881) 年	油彩・カンバス	本館蔵
まつおか ひさし 松岡 寿	凱旋門 <small>がいせんもん</small>	明治15 (1882) 年頃	油彩・カンバス	本館蔵
ガブリエル・フォン・マックス	煙を出す壺を抱く女性 <small>けむりだ つぼだ じょせい</small>	制作年不詳	油彩・カンバス	石見美術館蔵
はらだ なおじろう 原田 直次郎	風景 <small>ふうけい</small>	明治19 (1886) 年	油彩・カンバス	本館蔵
はらだ なおじろう 原田 直次郎	裸体習作 <small>らたいしゅうさく</small>	明治17-19 (1884-86) 年頃	油彩・カンバス	個人蔵
はらだ なおじろう 原田 直次郎	男性像 <small>だんせいざう</small>	明治19 (1886) 年	油彩・カンバス	個人蔵
ジャン＝ポール・ローランス	サロン・ロポー (パリ市庁舎) 壁画習作 <small>しちょうしゃへきがしゅうさく</small>	制作年不詳	油彩・カンバス	島根県立美術館蔵
ジャン＝ポール・ローランス	「ジギベルトとキルベリク」 『メロヴィング王朝史話』より <small>おうちょうしわ</small>	制作年不詳	インク、褐色淡彩、黒鉛・紙	島根県立美術館蔵
かのこぎ たけしろう 鹿子木 孟郎	裸婦習作 (立像) <small>らふしゅうさく りつざう</small>	明治35 (1902) 年	木炭・紙	本館蔵
かのこぎ たけしろう 鹿子木 孟郎	男裸体習作 (杖を持つ男) <small>おとこ らたいしゅうさくつえ も おとこ</small>	明治35 (1902) 年	木炭・紙	本館蔵
かのこぎ たけしろう 鹿子木 孟郎	男裸体習作 (背面) <small>おとこ らたいしゅうさくはいめん</small>	明治35 (1902) 年	木炭・紙	本館蔵
とくながひとおみ 徳永 仁臣	瞑想 <small>めいそう</small>	明治45-大正元 (1912-13) 年頃	油彩・カンバス	高梁市成羽美術館蔵
みつたに くにしろう 満谷 国四郎	裸婦 <small>らふ</small>	大正3 (1913) 年	油彩・カンバス	本館蔵
みつたに くにしろう 満谷 国四郎	ヨーロッパ風景 <small>ふうけい</small>	明治44-大正2 (1911-1913) 年頃	油彩・カンバス	本館蔵
さかた かずお 坂田 一男	キュビズム的人物像 <small>てきじんぶつざう</small>	大正14 (1925) 年	油彩・カンバス	本館蔵
さかた かずお 坂田 一男	坐る女Ⅲ <small>すわるおんな</small>	大正15 (1926) 年	油彩・カンバス	本館蔵
まさむね とくさぶろう 正宗 得三郎	パリの公園 <small>こうえん</small>	大正3 (1914) 年	油彩・カンバス	本館蔵
まさむね とくさぶろう 正宗 得三郎	パリのアトリエ	大正12 (1923) 年	油彩・カンバス	本館蔵
まさむね とくさぶろう 正宗 得三郎	秋林 <small>しゅうりん</small>	大正12 (1923) 年頃	油彩・カンバス	本館蔵

モーリス・ド・ ヴラマンク モーリス・ド・ ヴラマンク	かわ うえ 川の上のヨット、シャトゥー スケッチ	1909年頃 制作年不詳	油彩、カンバス ペン、インク・紙	島根県立美術館蔵 本館蔵
マルク・シャガール	じがぞう ほほえむ自画像	1924-25年	エッチング、ドラ イポイント・紙	本館蔵
マルク・シャガール	しゅつげん 出現 I	1924-25年	エッチング、アク アチント、ドライ ポイント・紙	本館蔵
なかやま たかし 中山 巍	もり み じいん 森の見える寺院	大正14 (1925) 年	油彩・カンバス	本館蔵
なかやま たかし 中山 巍	とけいと おとこ 時計と男	大正14 (1925) 年	油彩・カンバス	本館蔵
なかやま たかし 中山 巍	あわゆき パリ淡雪	大正10 (1922) 年	油彩・カンバス	本館蔵
なかやま たかし 中山 巍	やね パリの屋根	大正11 (1922) 年	油彩・カンバス	本館蔵
くによし やすお 国吉 康雄	ふうけい 風景	大正8 (1919) 年	油彩・カンバス	福武コレクション蔵
くによし やすお 国吉 康雄	ひじか いす らふ 肘掛け椅子の裸婦	大正9 (1920) 年	油彩・カンバス	福武コレクション蔵
くによし やすお 国吉 康雄	ひ こども カーテンを引く子供	大正12 (1923) 年頃	油彩・カンバス	本館蔵
くによし やすお 国吉 康雄	よあ く 夜明けが来る	昭和19 (1944) 年	油彩・カンバス	本館蔵

動植物へのまなざし

私たちの周りには厳しくも豊かな自然が広がり、多くの動植物が共存しています。私たちは美しい花々を愛で、小さな虫たちにも好奇心をかき立てられ、移り変わる季節、繰り返される生と死に命の尊さや世界は「無常」であるということを教えられてきました。ここでは、1期は春爛漫、咲き誇る花々を、2期は夏、水に戯れる魚たちを中心に、作品がつなぐ命の姿をご覧ください。

洋画家や日本画家は動植物の活き活きとした姿を丹念に素描し、構図をまとめ彩色し作品に仕上げます。近年評価の高い正阿弥勝義の《超絶技巧》と称される緻密で真に迫る鶴や鶏をはじめ、備前焼や木工、漆芸など工芸家たちが素材を吟味し、技法を凝らした中に時にユーモアを交えて楽しく表した動植物—それぞれの素材の違い、表現の違いを見比べてみてください。

また、ここでは当館が取り組む《作品からつながる》鑑賞支援ツールについてもご紹介します。

作者	作品名	制作年	材質・技法	所蔵
おかもと とうき 岡本 唐貴	せいぶつ まくわうりのある静物	昭和2 (1927) 年	油彩・カンバス	本館蔵
きしだ りゅうせい 岸田 劉生	せいぶつ ギヤマンのある静物	昭和4 (1929) 年	油彩・カンバス	本館蔵
うめはら りゅうざぶろう 梅原 龍三郎	はくとう ほんとう 白桃・蟠桃	昭和35 (1960) 年	着彩、金泥・紙	本館蔵
うめはら りゅうざぶろう 梅原 龍三郎	あかえざら はまやきだい 赤絵皿に浜焼鯛	制作年不詳 (20世紀)	着彩、金泥・紙	本館蔵
やすい そうたろう 安井 曾太郎	せいぶつ しんしゅはくとうあおあかしろかくしゅ 静物 (新種白桃青赤白各種)	不詳 (1888-1955年)	油彩・カンバス	本館蔵
やすい そうたろう 安井 曾太郎	せいぶつ きさらぎ たい 静物 (如月の鯛)	不詳 (1888-1955年)	油彩・カンバス	本館蔵
はら ぶしょう 原 撫松	あゆ 鮎	明治25-27 (1892-94) 年	水彩・紙	本館蔵
はら ぶしょう 原 撫松	しょうどうぶつ 小動物スケッチ	明治24 (1891) 年	水彩・紙	本館蔵
はら ぶしょう 原 撫松	なし 梨	明治25 (1892) 年	水彩・紙	本館蔵
はら ぶしょう 原 撫松	なす 茄子	明治25 (1892) 年	水彩・紙	本館蔵
はら ぶしょう 原 撫松	まつたけ 松茸	明治25 (1892) 年頃	水彩・紙	本館蔵

なかやま たかし 中山 巍	せいぶつ かほちやのある静物	昭和32 (1957) 年頃	油彩・カンバス	本館蔵
ふしょう (かのうは) 不詳 (狩野派)	ももたろうえまき 桃太郎絵巻	江戸時代 (18世紀)	紙本着色	本館蔵
いなば しゅんせい 稲葉 春生	いせ えび 伊勢海老 (スケッチ)	昭和4 (1929) 年	鉛筆、墨、水 彩・紙	本館蔵
いなば しゅんせい 稲葉 春生	イタチ・カミキリムシ (スケッチ)	昭和5、昭和24 (1930、1949) 年	鉛筆、淡彩・紙	本館蔵
いなば しゅんせい 稲葉 春生	かたつむり (スケッチ)	昭和16 (1941) 年	鉛筆、淡彩・紙	本館蔵
いなば しゅんせい 稲葉 春生	クルマエビ (3) (スケッチ)	昭和44 (1969) 年	鉛筆、淡彩・紙	本館蔵
いなば しゅんせい 稲葉 春生	シャコ (スケッチ)	昭和36 (1961) 年	鉛筆、淡彩・紙	本館蔵
いなば しゅんせい 稲葉 春生	ほたん めばると牡丹がき (スケッチ)	昭和18 (1943) 年	鉛筆、墨、淡 彩・紙	本館蔵
ふじもと てっせき 藤本 鉄石	ほうぎよびょうぶ 放魚図屏風	文久2 (1862) 年	紙本墨画淡彩	本館蔵
まるやまはがっさく 円山派合作	とうかかめず 藤花亀図	江戸時代 (18-19世紀)	紙本墨画	個人蔵
みやもと むさし 宮本 武蔵	うず 鵜図	江戸時代 (17世紀)	紙本墨画	本館蔵
なんば じんさい 難波 仁斎	かききまかんしつざわがにぼん 描菂醬乾漆沢蟹盆	昭和48 (1973) 年	乾漆、描菂醬	個人蔵
おおた ひとし 太田 儔	むし え こうごう 虫の絵キンマ香合	平成10 (1998) 年	菂醬、木	本館蔵
おおた ひとし 太田 儔	え こうごう カマキリ絵キンマ香合	平成3 (1991) 年	菂醬、木	本館蔵
ひらが せきせん 平賀 石泉	まるほん 丸盆	昭和時代 (20世紀)	木製	本館蔵
やまもと ぞうせき 山本 象石	ごけいついきくそうほり 碁筭一對菊総彫	昭和時代 (20世紀)	彫漆	本館蔵
やまぐち まつた 山口 松太	もくちようかえるこうごう 木彫蛙香合	昭和-平成時代 (20-21世紀)	木製	本館蔵
やまぐち まつた 山口 松太	もくちようなすこうごう 木彫茄子香合	昭和-平成時代 (20-21世紀)	木製	本館蔵
やまぐち まつた 山口 松太	もくちようほおずきこうごう 木彫酸漿香合	平成2 (1990) 年	木製	本館蔵
やまぐち まつた 山口 松太	もくちようせみこうごう 木彫蟬香合	平成18 (2006) 年	木製	本館蔵
やまぐち まつた 山口 松太	かまきりこうごう 蠨螂香合	昭和-平成時代 (20-21世紀)	木製	本館蔵
おの ためろう (にだい) 小野 為郎 (二代)	かざ ざら 飾り皿 (5) かれい	昭和時代 (20世紀)	三彩彫漆	本館蔵
おの ためろう (にだい) 小野 為郎 (二代)	ふみばこ (はがきいれ) 文箱 (葉書入) コオロギ	昭和時代 (20世紀)	三彩彫漆	本館蔵
こまつばら けんじ 小松原 賢次	らんかかぬ ぼこ ごと 卵殻変わり塗り箱「郷」	平成21 (2009) 年	変わり塗り、卵 殻、平文	本館蔵
おおあえ じんどう 大饗 仁堂	びぜんやきてづくりこうあんせんじん 備前焼手造黄安仙人	大正-昭和時代 (20世紀)	備前土	個人蔵
しょうあみ かつよし 正阿弥 勝義	たいぎよくかざりぞうこうろ 戴玉飾象香炉	明治時代 (19世紀)	金工・木彫 (黒 檀、銀、貴石、珊 瑚、べつ甲他)	野崎家 塩業歴史館蔵
しょうあみ かつよし 正阿弥 勝義	しゃちこうろ 鯨香炉	明治時代 (19世紀)	銀地金銀赤銅象嵌	岡山県立博物館蔵
しょうあみ かつよし 正阿弥 勝義	かまきりおきもの 蠨螂置物	明治33 (1900) 年	臘銀地素銅孔雀石 象嵌	岡山県立博物館蔵
しょうあみ かつよし 正阿弥 勝義	きくかむしずかしき 菊花虫図菓子器	明治時代 (19世紀)	金、銀、銅他	林原美術館蔵
ひらた ごうよう 平田 郷陽	かはんらくじつ 河畔落日	昭和16 (1941) 年	木彫、着せ込み	本館蔵
ひらくし でんちゅう 平櫛 田中	いづらちようじん 五浦釣人	昭和38 (1963) 年	木彫	本館蔵
おの こうせき 小野 耕石	Inducer.05	平成29 (2017) 年	インク、樹脂・ 頭骨	個人蔵

ときめくファッション — 洋の装い

日本における洋装化は、明治期における男性の制服着用から始まり、次に子ども、女性の服装という順に進んでいき、初期の頃には、着物はそのままだに、洋風の小物を取り入れる和洋折衷の装いがなされました。はじめにご覧いただく児島虎次郎の《登校》は、洋装化への初期の様子がうかがえる好例です。

次に徳永仁臣、正宗得三郎、片岡銀蔵らがパリ遊学中に描いた女性像を紹介し、津山市出身の森本美由紀が描いたスタイル画を展示します。今回は島根県立石見美術館のコレクションからドレス3点を展示し、森本の創作の源となった1950年代と60年代のファッションを紹介します。

また最後には西洋の服装だけではなく、中国服も登場します。洋装のはじまりから現代のスタイル画まで、描かれた装いの数々をお楽しみください。

作者	作品名	制作年	材質・技法	所蔵
こじま とらじろう 児島 虎次郎	とうこう 登校	明治39 (1906) 年	油彩・カンバス	高梁市成羽美術館蔵
よしだ しげる 吉田 苞	さかつ にわ 酒津の庭	昭和2 (1927) 年	油彩・カンバス	本館蔵
はら ぶしょう 原 撫松	こむろさんきちぞう 小室三吉像	明治40 (1907) 年	油彩・カンバス	本館蔵
はら ぶしょう 原 撫松	こむろみえぞう 小室美恵像	明治40 (1907) 年	油彩・カンバス	本館蔵
とくながひとおみ 徳永 仁臣	パリーヂェンヌ	大正元-2 (1912-13) 年頃	油彩・カンバス	高梁市成羽美術館蔵
まさむね とくさぶろう 正宗 得三郎	ふじんぞう 婦人像 (パリジェンヌ)	大正3 (1914) 年	油彩・カンバス	本館蔵
かたおか ぎんぞう 片岡 銀蔵	パリジェンヌ	昭和3 (1928) 年	油彩・カンバス	本館蔵
もりもと みゆき 森本 美由紀	が スタイル画	制作年不詳 (20-21世紀)	紙	個人蔵
パコ・ラバンヌ	イブニング・ドレス	1966年	アルミニウム、真 鍮	島根県立 石見美術館蔵
クリストバル・ バレンシアガ	カクテル・ドレス	1957年	シャンティイレー ス、絹	島根県立 石見美術館蔵
ピエール・バルマン	イブニング・ドレス	1955年頃	絹ベルベット、 絹ファイユ地	島根県立 石見美術館蔵
よしだ しげる 吉田 苞	あか しながさ 赤い支那傘	大正15 (1926) 年	油彩・カンバス	本館蔵
ひらた ごうよう 平田 郷陽	しょうじょ 少女	昭和4 (1929) 年	木彫、着せ込み	本館蔵

岡山の風景

北を中国山地、南を瀬戸内海に挟まれた岡山県は、変化に富んだ自然と地域性豊かな景観を有しています。四季折々の表情を見せる自然や、地域に根ざした人々の暮らしは、多くの作家に恰好のモチーフを提供してきました。この章では、岡山に題材を求めた近代から現代までの作品を通して、作家ごとに様々な解釈された岡山をご紹介します。

暮らしの中で何気なく目にする風景を作家はどのように見つめ、切り取っているのでしょうか。懐かしい風景やなじみ深い場所も、いつもとは異なる一面を見せてくれるでしょう。また現在では失われてしまった風景や人々の暮らしも、作品の中では生き生きと当時の様子を伝えてくれます。岡山の内包する豊かな美の世界を存分にお楽しみください。

作者	作品名	制作年	材質・技法	所蔵
ふちがみ きよっこう 淵上 旭江	ごきしちどうず 五畿七道図	寛政8 (1796) 年序	絹本着色	本館蔵
おの ちつきよう 小野 竹喬	しまに さく そうしゅん ふゆ おか 島二作 (早春・冬の丘)	大正5 (1916) 年	絹本着色	笠岡市立 竹喬美術館蔵
しおで ひでお 塩出 英雄	かいとう 海島	昭和37 (1962) 年	紙本着色	本館蔵

みつたに くにしろう 満谷 国四郎	せとないかいふうけい 瀬戸内海風景	大正6 (1917) 年	油彩・カンバス	本館蔵
さたけ とく 佐竹 徳	じゅ オリーブ樹	制作年不詳 (20世紀)	油彩・カンバス	本館蔵
なかつせ ただひこ 中津瀬 忠彦	あさひがわ 旭川	昭和37 (1962) 年	油彩・カンバス	本館蔵
みどりかわ よういち 緑川 洋一	いし で みなみに しま 石の出る南の国の島	昭和15 (1940) 年	モダンプリント	緑川洋一記念室蔵
なかむらあきお 中村 昭夫	おおはらびじゅつかんおくじょう くらしきえきほうめん いえなみ 大原美術館屋上より倉敷駅方面の家並	昭和32 (1957) 年	ゼラチン・シル バープリント	倉敷市立美術館蔵
なかむらあきお 中村 昭夫	くらしきがわ みんな やなぎなみき 倉敷川あたりの民家と柳並木	不詳	ゼラチン・シル バープリント	倉敷市立美術館蔵
なかむらあきお 中村 昭夫	くらしき るじ 倉敷の露地	不詳	ゼラチン・シル バープリント	倉敷市立美術館蔵
おおはし ひろし 大橋 皓志	ぎょこう あさ 漁港の朝	昭和30 (1955) 年	水彩・紙	本館蔵
おかの こうぞう 岡野 耕三	ほ 干しだこ	昭和38 (1963) 年頃	油彩・カンバス	本館蔵
たかはら よういち 高原 洋一	すいでん うえ きかけい 水田の上の幾何形 A	昭和54 (1979) 年	シルクスクリー ン版画	本館蔵
ハンス・ファン・ デル・メール	せと おおはし 瀬戸大橋	平成13 (2001) 年	カラー写真プリ ント	岡山県蔵
ハンス・ファン・ デル・メール	つやま 津山	平成13 (2001) 年	カラー写真プリ ント	岡山県蔵

時間・時代

過去から現在、そして未来へとつながり、あるいは時空を超えたその向こうへと拡がる「時」という概念はとても幅広く、環境や心情などその時々状況によって様々な認識で捉えられています。

下道基行による《Dusk / Dawn Thira / Siem Reap》は、遠く離れた2つの対照的な風景がつながることで「終わり」と「始まり」が同時に起きていることを示唆しており、太田三郎が長年にわたって発表し続けているオリジナルの切手作品には、「時間」と「場所」の関連性がテーマとして込められています。

このコーナーでは、ごく僅かな時間の痕跡や、長時間あるいは長い月日に及ぶことの積み重ね、またはリアルタイムの記録や同時性など、「時」にまつわる多様な表現をご堪能ください。

作者	作品名	制作年	材質・技法	所蔵
したみち もとゆき 下道 基行	Dusk/Dawn Thira/Siem Reap	平成23 (2011) 年	ラムダプリント	本館蔵
なかはら こうだい 中原 浩大	すいそう 水槽	平成7 (1995) 年	水槽に着色	個人蔵
なかはら こうだい 中原 浩大	レゴカー (ラジコン)	平成2、25 (1990, 2013) 年	レゴブロック、ラ ジオコントロール カーキット、プロ ポ	個人蔵
きたがわ たろう 北川 太郎	じくう 時空ピラミッド	平成28 (2016) 年	御影石	個人蔵
すずき 鈴木 サトシ	い 生きることはざまで — ハンセン病 隔離の肖像	平成10-16 (1998-2004) 年	ゼラチン・シル バープリント	個人蔵
おおた さぶろう 太田 三郎	Weather Map Stamps	平成2 (1990) 年	コピー、レーザー プリント・紙	本館蔵
おおた さぶろう 太田 三郎	Seed Project	平成7、平成14、平成16 (1995, 2002, 2004) 年	ムクゲ、コスモ ス、イタドリの種 子・和紙	本館蔵

シュール、幻想 — リアルを超えて

古より画家たちは、目の前に広がる実際の世界をありのままに再現しようとしただけでなく、目には見えないものや現実ではない世界をも描こうとしました。岡山ゆかりの洋画家たちもまた、シュールレアリスム絵画運動などに影響を受けながら、時として、記憶や夢の中の情景、あるいは空想の世界を描いてきました。

パリ留学からの帰路ギリシャに立ち寄り、古代彫像や遺跡をデッサンした中山巍は、古のギリシャの栄華を思い偲んで、緑の背景に彫像や壺が浮遊するようなシュールな世界を描いています。また有元利夫と瀬本容子は、二人とも、どこか中世ヨーロッパやルネサンスの雰囲気を感じさせる神秘的な人物を登場させ、現実ではないどこか別次元の幻想的な世界を描いています。

ここでは、目には見えない記憶や幻想など、超現実や非現実の世界を主題にした作品をご紹介します。

作者	作品名	制作年	材質・技法	所蔵
くによし やすお 国吉 康雄	まつ お 祭りは終わった	昭和22 (1947) 年	油彩・カンバス	本館蔵
なかやま たかし 中山 巍	ついで ギリシャの追想	昭和12 (1937) 年	油彩・カンバス	本館蔵
さいとう しんいち 斎藤 真一	あか ゆうしゅう 赤い憂愁	昭和41 (1966) 年	油彩・カンバス	本館蔵
みはし たけし 三橋 健	わか ひ かんしょうてき 若き日の感傷的パノラマ	昭和12-13 (1937-38) 年	油彩・カンバス	本館蔵
ありもと としお 有元 利夫	かいわ 会話	昭和55 (1980) 年	混合技法・カンバス	本館蔵
せもと ようこ 瀬本 容子	しゆくさい 祝祭	平成9 (1997) 年	テンペラ・板	本館蔵

抽象 — 線と色

多くの人が幼い頃、地面に指でらくがきをしたり、クレヨンでカラフルな絵を描いて遊んだりした経験があるのではないのでしょうか。「絵」を描くステップとして、人は線で描くことからはじめ、そして色と出会います。

このコーナーでは、絵画を構成する上で重要な「線」と「色」に焦点をあて、フランス留学後にキュビズムから抽象絵画の研究へと進んだ坂田一男 (1889-1959) や、微細なドットの版を数十～百回刷り重ねることで立ち現れる「インクの柱」によって多彩な色層表現を追求する版画家・小野耕石 (1979-)、身近な草木で染めた絹糸を用いて、自然に寄り添いながら美しい縞模様を生み出す染織家・佐藤常子 (1938-) など、抽象画のみならず版画や工芸など多様な作品から線と色の豊かさに迫ります。

作者	作品名	制作年	材質・技法	所蔵
さかた かずお 坂田 一男	コンポジション (メカニック・エレメント)	昭和30 (1955) 年	油彩・カンバス	本館蔵
りゅう せいよう 劉 生容	しょうきん 焼金 No.6	昭和40 (1965) 年	油彩、カラー ジュ・カンバス	本館蔵
たかはし しゅう 高橋 秀	そう 蒼	平成20 (2008) 年	アクリル、金箔・ カンバス	個人蔵
ひがしじま つよし 東島 毅	Untitled	平成11 (1999) 年	ハウスペイント、スプレーペイント、モデリングペースト・カンバス	本館蔵
こだま ともき 児玉 知己	あたた かいが 温かい絵画	平成24 (2012) 年	アクリル絵具、塗料・紙、カンバス	本館蔵
くどう てつみ 工藤 哲巳	げんてい お ぞうしよくせいれんさはんのう 限定プールに於ける増殖性連鎖反応	昭和35 (1960) 年	ラッカー・板	個人蔵
くどう てつみ 工藤 哲巳	あいだ めいそう 間での瞑想	昭和53 (1978) 年	合成樹脂、糸他	倉敷市立美術館蔵
おの こうせき 小野 耕石	Hundred Layers of Colors	平成25-26 (2013-2014) 年	スクリーンプリン ト、油性インク・紙	本館蔵
おかもと きんぞう 岡本 欣三	しきんゆうかびん 紫欣釉花瓶	昭和 - 平成時代 (20世紀)	陶土	本館蔵

くぼた あつこ 久保田 厚子	せいはいくじきかがくもんようおおざら 青白磁幾何学文様大皿	平成13 (2001) 年	磁土	本館蔵
おおの しょうわさい 大野 昭和齋	くわづくりせんぞうがんはこ 桑造線象嵌箱	平成元 (1989) 年	桑、黄楊、黒柿	本館蔵
おおの しょうわさい 大野 昭和齋	けやきもくめちんきんもりき やくどう 樺杓目沈金盛器「躍動」	平成元 (1989) 年	樺	本館蔵
さとう つねこ 佐藤 常子	つむぎおりきもの ひしょう 紬織着物「飛翔」	平成9 (1997) 年	絹	本館蔵

モノ：カタ

モノクロームやモノトーン…単一的な要素=モノに着目し、銅版画の技法でモノクロの虚構世界を緻密に描き出す内田智也 (1947-2009) や、積層することで一つの塊となった板ガラスを削り、研磨して揺らぎのある形を生み出す家住利男 (1954-) など、一つの素材がもつ魅力から巧みに生み出された多彩な表現をご紹介します。

そして「1」を意味する“モノ”に対し、複数性をもつ「型」を用いた表現として、版画技法を三次元へ応用し、物質を正確に複製することで物質自体のオリジナリティとその存在について問いかける大西伸明 (1972-)。さらに、歌舞伎などにおける型と同様に、作家が追求したスタイル=“型”から、綿を雁皮紙で包みふくよかなオブジェ作品を展開した小田宏子 (1940-2015) など、岡山ゆかりの作家による独自の世界観にご注目ください。

作者	作品名	制作年	材質・技法	所蔵
いえずみ としお 家住 利男	F.040898	平成10 (1998) 年	板ガラス・接着・研磨	個人蔵
いえずみ としお 家住 利男	F.010599	平成11 (1999) 年	板ガラス・接着・研磨	個人蔵
うちだ ともや 内田 智也	Combination Nest #2001	平成12 (2000) 年	エッチング・アクアチント・紙	本館蔵
アオキ スミエ	1983	昭和58 (1983) 年	油彩、鉛筆・カンバス	本館蔵
かわぐち たつお 河口 龍夫	10の部分よりなる筒体 <small>ぶぶん どうたい</small>	昭和49 (1974) 年	鉛	本館蔵
かわぐち たつお 河口 龍夫	22の部分よりなる六面体 <small>ぶぶん ろくめんたい</small>	昭和49 (1974) 年	鉛	本館蔵
イサム・ノグチ	せっこうがた 石膏型	昭和27 (1952) 年	石膏	個人蔵
イサム・ノグチ	さくひん びぜんやき 作品 (備前焼)	昭和27 (1952) 年以降	備前土	個人蔵
おだ ひろこ 小田 宏子	seed of…	平成20 (2008) 年	雁皮紙、綿	本館蔵
ひらくし でんちゅう 平櫛 田中	ししおう きくごかがみじし 獅子王 (菊五鏡獅子)	昭和21 (1946) 年	木彫・彩色	個人蔵
ひらくし でんちゅう 平櫛 田中	かがみじし 鏡獅子	昭和33 (1958) 年	木彫・彩色	本館蔵
てらだ たけひろ 寺田 武弘	へんい 変位 (1)	昭和44 (1969) 年	木	本館蔵
まつい な 松井 えり菜	あくまでき 悪魔的なかつこよさで	平成23 (2011) 年	アクリル絵具、木製パネル	個人蔵
まつい な 松井 えり菜	しんあい たかはしまこと 親愛なる高橋真琴summer!	平成23 (2011) 年	油彩、カンバス	個人蔵
おおにし のぶあき 大西 伸明	mini kupa	平成20 (2008) 年	樹脂に塗装	本館蔵

おとなり美術館

作者	作品名	制作年	材質・技法	所蔵
不詳	しちじ つきびん 七耳付瓶	ローマ時代 (300-350年頃)	ガラス	岡山市立オリエン ト美術館蔵
こやま ふじお 小山 富士夫	せいはいくじたじこ 青白磁多耳壺	昭和時代 (20世紀)	白土・天目釉	本館蔵